

レパパ講座の総括

新野由子 東京都助産師会理事

のため、従来から行われていた両親学級の概念から一歩踏

み込んだ、「頼れるパパ」になっていただく事を目指す必

え、里帰り分娩はほぼ期待できない東京在住の夫婦にとっ

たなくなってきています。初産婦の働く割合が7%1と増 力しながら、仕事や子育てを行わないと社会生活が成り立 天の産休や育休取得が推奨され、核家族化の中で夫婦が協

て、妊娠、出産、育児を共に協力する必要があります。そ

接育児、コミュニケーションの重要性等を含)④ 沐浴に 1. **講義**: ①ママの身体のこと (妊娠・出産・産後)、② ープワーク(家事の分担、男性脳・女性脳、直接育児・間 パパができるママケア・ベビーケア。 ③パパ同士のグル

2. 実技: 沐浴体験

ついての説明

参加者には満足していただいたことに、安堵しています。 とも言えない1名、記載なし1名という回答でした。概ね 師を今後の相談役の1つとして活用しようと思われます か:まあまあそう思う5名、とてもそう思う4名、どちら 満足度:大変満足6名、まあまあ満足5名。②地域の助産 講座を終えてのアンケート結果概要は、①講座に関する



健領域にどのような変化が起こるだろうかという事を考え

プレパパ講座を通じて、今後日本社会において、母子保

女性の社会進出が進んでいるにも関わらず、「家事育児は たいと思います。性的役割分担が残っている日本において

女性の仕事」と言われてきて久しいです。しかし、近年

田谷区、練馬区、江東区で、パパ11名の年齢層は:30代6 のプレママは9名。参加者の居住地域は品川区 妊娠、出産を迎えるパパでした。 名、4代3名、20代1名、記載なし1名。全員が初めての パ講座を実施しました。 参加者はプレパパ11名、 2024年12月14日 (土)午後に品川港地区分会で、プレパ 港区、世 付き添い

間の濃厚なプログラムです。 講座は助産師6名で担当し、内容は下記の通りで、2時

母親意識が醸成されていく事が期待され、そのためにもコ が必要であるという事です。妊娠中から将来の「赤ちゃん 関わるために知識や技術を得て、ママをサポートすること 要があると考えました。今回のプレパパ講座で意識して伝 産師も側面サポートに努めたいと思います。そして、その されたパパたちは、それぞれに意欲的に知識や技術を修得 えたメッセージは、パパが妊娠、出産、育児、家事等に対 を創造することにつながると期待しています。 事が、夫婦と子どもが幸せで、ひいては成熟した日本社会 して、カップルが一緒に笑って成長できるよう(2)、 しようとしていました。今後とも、妊娠、出産、育児を诵 ミュニケーションが重要な鍵となります。実際、今回参加 がいる生活」をイメージし、夫婦で話し合うことで父親。 して、単にママの手伝いとしてではなく、自らが積極的に

【資料】

(1) 国立社会保障•人口問題研究所「第16回出生動向基本調査(夫 婦調査)」(2021年)

(2)木下ゆーき氏(子育てインフルエンサー)の「おむつ替え」

Tokyo サンバ通信 No.44

練馬区パパデイケアを開催して

練馬助産師会 岸本希美(あおい助産所)



練馬区では、助産師3名がそれぞれ1回ずつ計3回のパパデイケアを 実施しました。

内容はそれぞれの助産師の強みを活かしたミニレクチャーを企画し、 複数回参加しても飽きがないように工夫しました。ミニレクチャーの内 容は、1回目「パパと発達遊び」2回目「はじめての性教育~おちんちん・ おまたのケア~」3回目「乳幼児のいる家庭での防災対策」についてです。 当初は、以前の東京都助産師会開催のパパ教室(妊娠中)に参加された

方対象に広報しましたが、申し込みが数件しか無かったため、地域の保健センターで対象になる方に 声をかけたり、SNS で広報を行い、集客を行いました。

その結果、それぞれ3組の定員で、計10組が参加されました。その中には、パパと赤ちゃんでお出かけするのははじめてという方も多くいました。

私は2回目を担当し、絵本や手遊び歌、ミニレクチャー、手形足形作成、育児相談を実施しました。2時間という時間で設定していましたが、パパ同士なかなか会話が弾まず、私自身もパパだけという場面でファシリテーターを行った経験が無かったため、うまく会話を誘導することができず時間が長く感じてしまいました。

フリータイム以外の時間は、とても楽しく興味を持って参加される姿があり、ミニレクチャーでは活発に質問も見られました。フリータイムの育児相談や、パパ同士の交流をどのように促していくか、会話を引き出していくかが今後の課題です。

また、4ヶ月の赤ちゃんが、はじめてのパパとのお出かけで、場所見知りもあり、ほとんど泣いて過ごしていました。そのため、声掛けをしたり、こんな時どうしているか周りのパパに意見を貰ったりしました。しかし、アンケートでは申し訳なく思ったと回答があり、せっかく勇気を持って来てくれたパパにそのような気持ちを抱かせてしまったのは悔しいなと感じます。これを機に積極的にパパと赤ちゃんのお出かけをしてもらいたいなと思っていたので、申し訳なく思わせないような声掛けを工夫する必要があったなと思います。

ママ同士の交流と違い、フリータイムでは、育休中から仕事復帰後の生活の変化、どのように仕事を調整しているかで話が弾んでおり、パパ特有の悩みや意見を聞けたのは勉強になりました。ママ同士だと、生活リズムや授乳のこと、寝かしつけなどで盛り上がることが多いと感じますが、そのあたりの話を振ってもあまり盛り上がらず終わってしまい、ママとパパでは視点が違うのだなと改めて感じました。アンケートでは、「家事の分担や子どもの貯金、保険の話をほか参加者としたかった」といった意見もありました。

その他参加者の感想では、「なかなかママ1人で過ごす時間を取れない中、良い機会になった。」「子どもについて改めて考える機会になった。」「遊び方を教えてもらえてよかった。」「性教育という題材はなかなか触れる機会がないため、学べて良かった。」「他のパパと情報交換できて良かった。」などポジティブな感想が多く、パパデイケアに参加したことで、パパと赤ちゃんのお出かけに少しでも自信が持てたのでは無いかなと嬉しく思います。

パパの育休取得の増加、育休を取得していなくても積極的に育児に参加するパパが増えているというのを、地域で活動していると肌身にとても良く感じます。今回パパデイケアの担当をさせてもらった事で、パパへの働きかけの仕方、工夫が必要な事が学べました。

また、もっとパパが積極的に、気兼ねなく参加できるイベントや、広場などを増やしていく必要性を感じます。

今回、私がパパデイケアを開催した施設は、上石神井駅徒歩1分の場所に新しくできた広場(コモンリビング ototoilo)です。親子広場の日、老若男女誰でも利用できる日、子ども食堂も行っています。上石神井は練馬区の端で、子育て広場も遠いためなかなか親子の行き場所が無かったのですが、この新しい広場が上石神井周辺の親子の居場所になったら嬉しいなと思います。また、その広場の2階を借り、産後デイケア施設をスタートさせました。施設を持つことは上手くいくか分からず、不安は大きいですが、地域の助産師として親子を支える役割を担っていきたいと思います。



親子で学ぶ性教育

牧野好恵 代田佳恵

いいお産の日イベント企画として「親子で学ぶ性教育講座」を助産師Wよしえコンビで開催しました。年齢に合わせて体のことを科学的に伝えていくことで、興味関心をもち、自分の体を大切に思う心を育んでいけるよう、年齢に合わせて2つの講座を用意しました。

午前の部「つながるいのちの話」代田佳恵が担当。年長さんから小学校低学年の親子3組、子ども6人大人3人が参加してくださいました。体の仕組みや性器の清潔、いいタッチ、悪いタッチ、はてなタッチ、安心できる境界線などの話をし

ました。赤ちゃんのおなかの中での育ちや、生まれてくる話も真剣なまなざしで聞いてくれていました。新生児と同じ重さの人形を上手に愛おしく優しく抱っこしてくれて、親御さんも「何グラムで生まれたよ」とお子さんに話していました。最後は性教育に関するたくさんの絵本や書籍を手に取りながら、質問など受けました。大切な話だけど、どう話していいのかわからなかったが、今後は絵本など活用していきたいと感想をいただきました。

午後の部「思春期の体 LABO」牧野好恵が担当。小3~高学年の親子3組6人の参加です。「研究員になったつもりで」と実験がたくさん!参加型のスタイルでやり取りしながら次第に緊張も解け、体のパズルやワークを楽しみました。フェルト教材を使って「性器の洗い方できてるかな?」という質問に、お子さんがポイントを教えてくれる場面もありました。



月経や射精のおこる仕組みをさまざまな模型やグッズを使いわかりやすく解説し、ワークシートなどもあり一方的に話を聞くだけでなく、考えたり、手を動かしたりして体のことを楽しく学びました。わからないことがあると親御さんに聞いていましたが、親子で「なんだろうね」と考える場面もあり、親御さんも様々な学びがあったようです。実験を交えたワークで科学的に学ぶ、学校での授業では体験しづらい内容をお届けできる少人数ならではの親子講座となりました。

「親子で学ぶ性教育講座」が、日常生活の中で自然に話題にできること、家庭でも前向きに安心して体のこと性のこと話し合えるきっかけ作りの一歩となれたら、嬉しいです。

私たちは、東京都助産師会「生・性を語るエデュケーター」です。研修を重ね、包括的性教育をしています。幼稚園・保育園、小・中学、高校、専門学校、大学等の学校関係や企業、ママ友グループ、保健関係者からの依頼を受けて、それぞれ活動しています。様々な形での性教育を年代に合わせて行います。どんな形でも対応させていただきます。東京都助産師会ホームページからご相談・ご依頼ください。



災害対篆委員会、12年の歩み

災害対策委員長 名嘉眞あけみ

▲ 回は東京都助産師会発足から 12 年の経過を振り 7 返ってみたいと思います。

平成21年11月に日本助産師会東京都支部から一般 社団法人東京都助産師会として歩み始めてまだ年月も 浅い平成23年3月に東日本大震災が発生しました。宗 祥子副代表理事(現代表理事)の発案で設立された「東 京里帰りプロジェクト」は、日本財団からの多額の補 助金を基に被災した妊産婦と母子を東京に呼び寄せて 分娩や育児に寄り添い、現地の助産師活動を支援しま した。これは東京都助産師会が災害時支援に積極的に 関与する大きなきっかけとなりました。それと同時に、 ボランティア精神だけでは充分な支援活動は続かない、 外部からの資金で助産師の生活や身分を保障すること も活動を充実させる重要ポイントだと気付かせてもら えた体験でもありました。

平成24年、災害時支援は助産師の重要な活動のひと つであるという理事会の総意で、災害対策委員会が発 足しました。そして同じころ、東日本大震災で現地支 援をした吉田 穂波医師の熱い訴えで、居住地である文 京区と共同で「災害時におなかの赤ちゃんを守るプロ ジェクト」が立ち上がりました。そこに東京都助産師 会の助産師がメインメンバーとして参加することとな ります。吉田医師の助産師への信頼と期待は被災地の 母子を必死に支援する助産師たちの熱意に感銘を受け たからとのことでした。災害弱者でありながら取り残 されがちな母子の安全と効率的な管理、また従来の避 難所等での不利益の解消の為にと提案され、助産師と 思いを同じくする各分野の有志によって、母子専用救 護所は文京区に日本で初めて誕生することとなりまし た。現在では全国の自治体でそれぞれの状況に応じて 母子への災害時支援が考慮されるようになり、このプ ロジェクトはその牽引の役を担えたことになります。

100年前と変わっていない環境の避難所を少しでも改 善できたらと、避難所運営のために静岡県防災課が開 発した HUG を、その防災課職員から直接伝授して頂き、 助産師会や自治体、小学校避難所運営委員会、任意グ ループなどに出張実演にも出向きました。災害に関す る知識を次々と学びながら委員会自身も成長しました。 今では防災士の資格を持つ委員もいます。

圧倒的に総数が少ない助産師単独では災害時支援は難 しいため公的組織のバックアップは欠かせません。平 成 19 年に東京都助産師会は東京都と災害時支援協定を 結びました。この協定は都内各自治体との災害時協働を 行えるように東京都がバックアップするという趣旨の内 容です。この協定と同時期に三鷹市地区分会が独自の成 果を上げ三鷹市との協定を締結しています。これを皮切 りに現在では24の市区と災害時支援協定が結ばれてい ます。災害時支援活動は大切ではありますが助産師自身 の身も守るためには協定は大きな意味を持つということ を災害対策委員会は伝え続けてきました。現在では災害 時支援を行う際の身分保障の方法に協定以外の方法も取 り入れて考える地区分会が増えてきたのは、所属する地 域と地区分会の特徴を踏まえた災害対策を考えるように なったからでもあります。

災害対策の大切な事柄として委員会が毎年続けている のは、災害に対する知識の伝達としての講習会の企画や、 安否確認訓練をすることで災害への意識を維持してもら うことです。

地区分会交流会では異なる地区の特徴を踏まえた災 害対策の情報を交換することで、その質を向上させるの に効果的だと考えます。現在はまだ地区分会が個別に災 害対策を行っていますが、実際の災害時には自分も被災 しながらの活動に他地区の協力は欠かせません。最近で は災害時二次医療圏が同じ地区分会同士の交流を促し て協働の道を見出していけたらと模索しているところで す。

平成 29 年に災害時地域周産期医療体制検討部会から 始まった災害時地域小児周産期医療体制推進部会に籍を 置いてきました。今までは災害時医療体制の組織化が中 心で助産師会が発言する機会はほとんどありませんでし たが、来年度からは医療対象でない要支援者に対する災 害時支援施策が検討されることになったそうです。助産 師として施策に関わるチャンスが多くなることを期待し ているところです。

委員会が発足したころに比較して全国の災害に対する 意識も変わり、災害対策の技術も進歩しました。委員会 も新しい知識を学ぶとともにそれを会員に活用していた だけるよう工夫努力を重ねていきたいと思います。大き な災害を予測させるような兆候も増えてきています。災 害時支援にはまず自身が安全安定していなければ務まり ません。個人の災害対策を怠らないように備えを進める ことをお勧めします。災害対策委員会はこれからも会員 の災害時の安全と活動を支えられるよう、努力を重ねて いきたいと思っています。

眉銜分ア開道雲昌会

理事1名、委員4名で担っています。

2024年の活動は、以下になります。

- ①開発した尺度、「産後ケアにおける助産師のケアの質を評価」の臨床への導入にむけた取り組み
- ②産後ケアに関する研究への協力

東京都委託講習会の担当は、以下の2コマ実施しました。

①テーマ:メンタルヘルスが気になる妊産婦との対話ポイントと助産師ができる支援

講師:三田村 康衣先生

所属:国立精神神経医療センター 認知行動療法センター リサ

②テーマ:健診、産後ケアで役立つ乳児の成長・発達の観察ポイント

講師:和田 友香先生

所属:国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 新生児科医長



総務総括委員会の活動

総務総括委員長 村田淳子

委員会活動の主な内容は

①各表彰の推薦事業がスムーズにいく ようにすること

②総会がスムーズに行われるようにサ

ポートすることです。

総務総括委員は現在5名です。

委員会は年5回開催。 (会議には総

主に各表彰の推薦事業に関することを 認は対面で実施しています。 オンライン中心で、提出書類の最終確 務総括担当理事が出席)

おおよそ1、2年前から選考し、募集 助産師会や地域の貢献度などを参考に 候補者の選出は、助産師歴のほか、

が漏れないように気を付けています。 短期間で書類を作成、提出と一番忙し 頂きます。推薦依頼の通達がきた後は、 時期の数か月前には候補者から内諾を い期間です。更に受賞決定まで、情報

す。 表彰には次のような種類がありま

た。

究会 母子保健愛励賞 主催:母子衛生研

も従事されている方 動に通算5年以上の経験を持ち、 年齢制限あり(55歳未満)母子保健活 推薦自治体の長 現在

年以上、会員歴10年以上)

日本助産師会会長表彰(助産師歴30

ること)

療への貢献者を顕彰する目的で読売新 京都保健医療局を経て届き、 出します。 聞社が創設。 東京都医療功労賞 毎年6月に募集要項が東 8月に提

「個人の部」

年齢原則50歳 10年経過して

「団体の部」活動実績

した。 今年度は板橋知子さんが受賞されま

より推薦依頼が届き、 東京都功労者賞 今年度は名嘉眞あけみさんが受賞さ 毎年1月に東京都 2月末に提出

れました。

優良助産師の厚生労働大臣表彰

美代江先生が表彰されました。

5年毎に表彰 次回は令和9年

・産科医療功労者厚生労働大臣表彰 個人または団体で提出しますが、医師 います。 会と1年おきに提出することとなって 今年度は宗尚子会長が受賞されまし

います。 に選外になった事例もあり、快く承諾 選出しているわけですが、残念なこと して下さった方々には心苦しく思って 今後とも総務総括委員会の活動をご

年早見表において数え年7歳以上であ ・日本助産師会永年活動感謝状(原則 として会員であること、出雲大社数え

1972年に地域医 対象 以上 10年以上、 式会社 おり、 体または個人 保健文化賞 保健衛生を実際に向上させた団 今後検討する。 2014年の受賞後、

師会役員歴10年以上 叙勲 40年以上の分娩介助歴、 助 産

年度より5年毎に表彰 章者であること 日本助産師会特別功労者表彰 2022年度 故廣瀬綾子先生 褒章、 佐々木 20 22

最後に、私達は賞にふさわしい方を

理解いただき、ご協力お願い致します。

の推薦が必要

主催:第

一生命保険株

広報委員会主催 「ザ・座談会」

広報委員 西川直子 渡辺愛

【東京都助産師会ビジョン 2027】は「Ⅲ 専門職能団体としての組織強化を図り、社会的地位の向上に努める」および「働く 場所が異なる助産師や、多職種との交流・情報交換の場を設け、連携の強化」の必要性も述べています。広報委員会はこの 役割を担い、2回座談会を開催しました。いずれの会も、3,4人に分かれて座談する時間を作りました。



1 第1回 テーマ「災害」

広報委員を入れて全員で15名の参加でした。最初の話 題として広報委員の西川より、コロナ禍の災害として、住 んでいたイギリスと日本の医療体制の違い(分娩時の医療 介入や母子分離など)や、家のポストに近所の人から「あ なたやあなたの隣の家の人は、食料が買いに行けず困って いないか?この地域のチャットグループを作るが希望する か?」と手紙が入っており、大変心強かったことを紹介し ました。また江東区では昨年「発災 72 時間以内のローリ スク分娩は助産師会で自宅分娩をお願いできるか」という 投げかけが保健所からあったことや「公衆衛生協力団体支 援金」を活用し「母乳と災害支援」をテーマに妊婦とパー トナーの方を対象に講座を開いたことを紹介しました。 宗会長の3.11での救援活動報告からは、災害時には母子 は分娩後早期に地域に出されてしまうこと、ライフライン も十分でない地域で母子が居場所を変えて点々とするこ と、その中で支援の必要な母子を見つけ、サポートするこ とが困難であったことが紹介されました。

感想として、自分の地区の防災について知らないことに 気が付いた/災害対策を通じて、地域の助産師の力が示せ る可能性を感じた/母子の避難所の話が参考になった/発 災直後よりその後に助産師が求められる。その時に実際に 動ける助産師の数を把握することや、行政と情報を共有す ることが大切。/ BPC ガイドラインの活用を提案したい、 など多くの感想を頂きました。



2 第2回 テーマ「産後ケア」

産後ケアの広まりにより、担い手不足や助産師以外の参 入・連携のニーズがあり、それぞれの地区の議員の方もお 誘いして座談会を開いてみよう、と広報委員で話し合い、 開催しました。

申込は議員11名、助産師32名(内、東京都助産師会 会員22名、会員外では北海道助産師会の方が1名、企業 の方が1名、クリニック勤務の方が1名)でした。助産 師・衆議院議員の酒井なつみさんも挨拶に来てくださいま した。

頂いた感想として、お母さん同士の交流も大切にするこ と/助産所のスペースをうまく活用すること/議員の方へ 投げかけることの重要性/産後ケアをどう使うかの助言や 配分のアプローチも助産師側の力/助産師としてやりがい のある産後ケア、継続ケアとは/施設の維持費、管理費、 人件費の補助が必要/事業として成り立たせる視点/メン タル合併など要支援妊産婦への関わりと地域へのつなぎ方 について事例や地区ごとの違い等知りたい/産後2週間前 後ですべての産後の方が利用できるようにシステムを構築 できたら良い/議員さんと話せ有意義だった(声多数)/ 交流機会のない助産師と話し学びになった/他地区の状況 知れてよかった等の感想をいただきました。

座談会はざっくばらんに自由に話せるところが良いとこ ろです。今後のテーマの要望に、伴走型支援、麻酔分娩、 自治体との連携を頂いております。広報委員では座談会が 終わった後の座談会も盛り上がりました。今後の座談会の テーマ提案や広報委員のメンバーを、大募集です。メール をお待ちしています。

地区分会活動紹介

江東区/北区/荒川区

等各地区の職場で出会うため 産や、新生児訪問、 またこの参加者の方々と、クリニック・助産所でのお ることを感じられ、 湧き、手触り感が得られ、夫婦で認識のすり合わせが 員が、土日祭日の大切な時間を割いて業務に従事して できた等コメントがあり、 好評をいただいております。実際の育児のイメージが ト体験等です。アンケートの回収率は9割強で、大変 沐浴と育児技術の演習、グループワーク、妊婦ジャケッ います。 あるとの自負があるためか、事務局をはじめ多くの会 ちが自ら予算を立て他社と競合して勝ち取った事業で この事業は、プロポーザルにて参入したもので私た 内容は、ふたりで育児の講座、母子保健制度の紹介、 保健所、 私たちが元気になれる瞬間です。 助産師として役にたててい 子ども家庭支援センター 「切れ目ない育児支援」

に繋がっている良い機会となっております。 この事業がきっかけとなり、 江東区の世論調査の第

一位である災害時の対

員 おります。 す。 の委託事業に発展させ 会を自主事業で行って 乳と災害支援」の講演 ていきたいと思って会 応の検討をはじめ、「母 同励んでおりま 今後は、 X

会長 石村あさ子



小学校で命の授業の予定もあります。 トワークの集いへの参加を実施しました。 交流会、伴走型プレパパ教室の開催、防災住民ネッ 荒川地区分会は2024年度の活動として保健所と 今後は

りました。 活動をしているか知ってもらう良いきっかけにな 団体との交流もでき、 いて考えるきっかけになった活動でした。 妊婦疑似体験やおんぶ体験を実施しました。集い 会も妊婦ジャケットや赤ちゃん人形を使用して に参加することにより妊婦や母子の避難援助につ 防災住民ネットワークの集いでは、荒川地区分 助産師が地域でどのような また他

会長 鷹巣淳子

> 間出生数は230人前後と横ばいでした。 番北に位置し、 こんにちは、 北地区分会です。北区は東京23区の 人口は増加傾向でコロナ禍でも年

版両親学級を令和3年度から対面講座とオンラインに

ております。その中で、江東区からの委託事業の休日

当地区分会会員数は、

現在33名で活動は多岐に渡っ

て年22回開催しています。

が水没する水害に備え、区の防災危機管理課ととも 担当し、専門職として意欲的に取り組んでいます。 乳児健診、個別訪問母乳育児相談など多くの事業を 育てトーク」の講座のほか、赤ちゃん訪問・母乳相 センターの保健師とも連携が密に行われています。 業の契約も予定されています。3か所ある健康支援 に防災対策にも力を入れています。 談・産後デイケア・伴走型相談支援、区の母親学級 地区分会主催の「お産準備講座」「卒乳準備講座」「子 スを持っており、行政との関係性は良好で新規の事 また区に沿って流れる荒川が氾濫すると区の半分 区役所の「健康部・保健サービス課」に面接ブー

会長 蒲澤直子



が幸せ

納得

0

できるお産と育児をスタ

ること

でき

いることに感謝の

想

を感じ、

じます。 で多くの

そし

お母 が

今後も助

産師とし (西川直子

て団結

て動

て

Ď す

助

なれ

表彰者(表彰の正式名称、受賞者氏名 敬称略)

っと慣れ

こまし

今回

「 の サ

通信

では総務総括委員会に

スから

本に

国して3年

広報委員

て知ることが

見えない所

助

産師

0

方

が つ

表彰関係 医療功労賞 板橋知子(江戸川) **●物故会員** 武市洋美(世田谷目黒)

●会員数

令和7年1月31日現在会費納入者数 1110 名

おめでとうございます!!

◎年会費の自動引落手続きについて

令和7年度の会費の自動引落が2月25日に前後に行われました。残高不足や、自動引落 の手続きが間に合わなかった方は、3月中旬に再度引き落としがかかっています。該当す る方は日本助産師会 (03-3866-3054) にお問い合わせください。

また自動引落の手続きが済んでいない方は、以下の方法でお早目に納入下さいますようお 願い申し上げます。(恐縮ですが、送金手数料はご負担下さい)。

なお、まだ自動引落のお手続きをされていない方は、指定口座からの自動引落による会費 納入が、原則となっております。口座引落依頼書は日本助産師会にございますので、お問 い合わせください。

年会費のお支払いがまだの方は、 下記にお振込み願います。

※正会員(一般) 25,000円(内訳:本部会費 15,000円東京都助産師会会費 10,000円)

※正会員(特別) 13,000円(内訳:本部会費 5,000円東京都助産師会会費 10,000円)

【郵便□座】

00170-7-484988 公益社団法人東京都助産師会

※他銀行からお振込みの場合

ゆうちょ銀行 O-九(ぜろいちきゅう)店当座 0484988

【銀行口座】

- ◎三井住友銀行 大塚支店 普通 1986476 公益社団法人 東京都助産師会
- ◎三菱 UFJ 銀行 江戸川橋支店 普通 0031243

公益社団法人 東京都助産師会 代表理事 宗 尚子

住所・職場、改姓等変更の手続きについて

必ず日本助産師会のマイページよりご自身で変更をお願いいたします。パスワードが不明の方は日本助産師会へお問 い合わせください。

令和6年度の退会を希望の場合は3月25日までにマイページよりお手続きをしていただかないと自動引落後の会費の 返金が出来なくなりますのでご注意ください。

東京都助産師会の所属地区分会を変更したい方は info @ jmat.jp までメールにてご連絡ください。

※令和7年度1号目の会報は会費納入がお済みでない方でもHPの掲載はご覧になれますが、その後も会費が未納、 信不通になりますと、会員専用ページは見ることが出来ませんのでご注意ください。

家族のメンタルケアメディア famitasu はママ・パパが手軽にメン タルヘルスケアを知り、実践できるメディア&コミュニティです。 メディアでは体験談や専門家監修記事、子育てのお役立ち情報な どを紹介しています。

コミュニティでは産後うつ経験者によるメンタル面のサポートや チャットでの交流、セミナーの開催など交流や学びの場も提供し ております。

コミュニティ イベント・セミナー

メディア 動画講座 カウンセリング









般社団法人 ドゥーラ協会

産前産後の女性に寄り添い支える 「産後ドゥーラ」の養成および認定を行っています。

産後ドゥーラ養成講座 第33期6月募集開始

平日・土日の2コースで開講。23区では受講費助成のある自治体も 増えています(条件あり)。**助産師資格のある産後ドゥーラには予約が集中しています!** FacebookやLINE公式アカウントでも情報発 信中。詳細・お問合せは 公式HPから! <u>https://www.doulajapan.com</u>

Tokyo サンバ通信 No.44

19

18

財

東京都助産師会館2階

<e-mail> info@jmat.jp